

第3章 これからのスポーツ施策

1. 本市スポーツ振興の計画改訂の視点・基本目標

計画策定の視点と目標・施策の設定

「スポーツをする」

課題のまとめ①

◆児童生徒に対しては、運動の日常化・習慣化を図り、運動をすることの好きな児童生徒の割合を高めることが重要な課題です。

◆児童生徒だけでなく、市民のスポーツの実施率を高めるには、仕事や家事で忙しい人や高齢者が、気軽に運動やスポーツを実施できる環境づくりや、手軽な運動内容などの普及、機会の創出などが課題です。

◆スポーツ等の実施にあたっては、「健康・体力づくり」や自身にとって「楽しく」やりたいという意向を踏まえた、きっかけづくりを行っていくことが大事です。

◆市民は、全体的に高い頻度のスポーツ等実施を希望しており、市民のスポーツ等への意欲は高いと言えます。

◆市民にとって自らがスポーツ等を行うことは生きがいにつながるものであり、市民におけるスポーツ実施率の向上によって、高齢者に限らず、市民一人ひとりにとっての生きがいづくりに結びつくことが期待されます。

◆生活習慣病の予防や市民の健康寿命の延伸のためにも運動・スポーツの推進は重要な取り組みです。

◆市民の健康寿命の延伸と、運動習慣の定着化などを目指し、健康づくりへの動機づけを助長するため、市等が実施する健康づくり事業に参加した方にポイントを付与し、貯めたポイントを商品券に交換できる「ひた市民健活ポイントサービス事業（健活事業）」を実施しています。

◆健活事業では、市民の健康診断受診や日々のウォーキング実施のほか、「行きましたよポイント」として、市等が主催の健康づくりに関する様々な催しに参加した場合にポイントを付与されます。

◆この制度は、スポーツイベントなどに参加することによって得られるポイントを貯める楽しみとともに、運動・スポーツをやってみようといった意識が高まっていくことが期待されます。

◆実施率は住民の地域への愛着度を図る指標とすることができ、スポーツ振興の立場から、スポーツ等の実施率の向上を最大の目標とすることが妥当です。

◆ただし、スポーツ等の実施率の調査については、大掛かりな市民調査が必要ですので、今後、本計画が期間満了する時点において新たな計画を策定に向けて必要な調査を行う際に実施し、「実施率の向上」という施策の評価指標とします。

第3章 これからのスポーツ施策

◆日田市スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づいて設置された、専門的な知識や経験によって、地域のスポーツ活動や健康増進活動について指導や助言を行う、日田市のスポーツ振興において中核的な役割を持つ人材であり、主に地域や市民の運動やスポーツ実施に密接にかかわる活動を行っています。

◆そのため日田市としては、推進委員協議会と一層連携を強化し、活動の活性化を目指す必要があります。

視点①

スポーツの実施率は、地域定住の指標として重要な鍵であり、スポーツ実施率の向上は、定住自立と健康寿命の延伸につながります。

基本目標と施策の方針① 「スポーツ実施率の向上」

基本施策① (1) 手軽な運動内容などの普及、機会の創出

施策の主体は市民・スポーツ推進委員協議会・学校・日田市などです。

「スポーツをする・観る」

課題のまとめ②

◆現在、35競技団体において構成されている日田市体育協会は、競技力向上や指導者の育成、競技人口の増加など各競技の振興によるスポーツ振興を目指しています。

◆また、市民体育大会の開催などをはじめ、市民の体力向上やスポーツ精神の涵養を図るべく活動を行っています。

◆各地域においても地区民体育大会なども積極的に開催されており、スポーツの側面から地域振興にも取り組んでいます。

◆しかしながら、体協傘下の各競技団体においては、ほぼ共通して競技者の高齢化のほか、競技人口の減少や低迷といった課題を抱えています。

◆これらの活動を維持・発展していくためには、加盟団体等の組織力の強化と連携の強化が必要です。

◆スポーツ少年団においては、社会体育の中でも、子どもたちの体力や社会性づくりなど欠かせない要素でもって青少年の健全育成に大きく寄与しています。

◆どの団も団員の減少などによって組織の維持に苦慮していますが、少子化という現象は体育活動だけでなく文化活動や学術活動の面でも影を落としている課題です。

◆各団の悩みの共有や課題解決に向けての取り組みは、日田市スポーツ少年団という

第3章 これからのスポーツ施策

組織の中で、相互に語り合い、交流を深めていくことが肝要です。

◆また、様々な課題解決のため、少年団の取り組みの先進的な事例に関する研修等も行っていく必要があります。

◆総合型地域スポーツクラブについては、現存する団体について今後の方針について協議を深めていくとともに、その他の地域において、日田市にふさわしいクラブのあり方について検討をしていく必要があります。

視点②

多くの市民に夢と感動を与えるとともに、スポーツへの興味や関心を高め、郷土への誇りと市民の一体感を生み出すなど、活力ある健全な社会の形成にもつなげるため、日田市のトップアスリートの活躍への励ましは重要です。

金銭給付だけでなく、市民の応援は士気へ大きな影響を与えることから、声援を活躍に生かすことができるスポーツで活躍するトップアスリートの情報を発信してまいります。

また、成長した選手はもちろん、今後もこれらの選手に続く人材が育成されることが期待されるとともに、そのような人材が後進のための指導者としても活躍するという好循環を生む雰囲気づくりを醸成することも大切な視点です。

基本目標と施策の方針② 「競技スポーツの振興」

基本施策② (1) トップアスリートへの励まし

(2) スポーツ関係団体支援と連携・協働

施策の主体は市民・体協・スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブ・日田市などです。

「スポーツをする・観る」

課題のまとめ③

◆日田市は、九州の中央部に位置し九州各県からのアクセスも良く、日田市陸上競技場など、市内の施設も充実していることから、スポーツコンベンションや日田市のスポーツに関する素材を生かしたスポーツツーリズムの振興が今後も一層図られることが期待されます。

◆天領日田ひなまつり健康マラソンなどのイベントは、日田市におけるスポーツのビッグイベントとして定着しているものですが、コンベンション誘致事業と軌を一にして、県内外からの誘客に努め、一層の人的交流が図られる取り組みとすることが重要

第3章 これからのスポーツ施策

です。

◆国際スポーツの祭典「第32回オリンピック競技大会（2020／東京）」、「東京2020パラリンピック競技大会」においては、主会場となる東京都周辺だけでなく、事前キャンプ地となると予想される国内各地に、経済効果のほか、様々なレガシーを残していく可能性があります。

◆これらを踏まえて、スポーツツーリズムの振興・シティセールスの強化にかかわるスポーツ振興の施策が、交流人口の増大や本市の認知度やイメージのアップにつながる取り組みとして位置付けていく必要があります。

視点③

日田市において新たな交流人口の増加と、地域経済の活性化を図るためには、日田市が持つ豊富な観光資源を磨いて活用する必要があり、スポーツコンベンションやスポーツに視点を置いたその他の地域資源を観光の素材とするスポーツツーリズムの振興を図ることが求められています。

さらに、日田市が持つ様々な魅力を内外に積極的・戦略的に情報発信することにより、本市の認知度やイメージを高め、定住や交流人口の増加を図り、地域の活性化を図る必要があります。

また、世界的なトップアスリートを日田市へ招へいすることで、一流の競技技術に触れ、市民の感動を呼び起こすなどの取り組みも重要です。

そのため、スポーツの分野においては、国際スポーツの祭典「第32回オリンピック競技大会（2020／東京）」、「東京2020パラリンピック競技大会」が本計画の期間内に開催されることから、シティセールスの絶好のチャンスととらえ、事前キャンプの誘致を積極的に推進し、地域住民との交流や競技スポーツの振興、それらに向けての施設の整備に努めなければなりません。

基本目標と施策の方針③ 「スポーツによる交流人口の増加」

基本施策③ (1) スポーツツーリズムの振興

(2) スポーツによるシティセールスの強化

施策の主体は市民・観光客・競技団体等・観光関係団体等・日田市などです。

「スポーツを支える」

課題のまとめ④

◆日田市が設立したスポーツ施設の多くは老朽化により経年劣化が進んでいます。

第3章 これからのスポーツ施策

◆今後の利用状況によっては、日田市がこのまま管理を続けていくべきかなど、将来的な財政負担も踏まえて、施設ごとに「継続」、「民間または地域への移管」、「廃止」などの方向性について、現在、検討を進めています。検討結果は日田市公共施設総合管理計画※として、公表することとしています。

◆またその中で、「継続」と判断された施設については、耐用年数いっぱいには利活用が図られるよう適正な管理と整備が求められます。

◆整備を行うに当たっては、施設の将来的な利用状況や、償却の状況、費用などの条件を勘案して整備計画を立案し、大規模改修等、計画的に整備を進めていく必要があります。

視点④

施設は、利用者がいてはじめて成立するものです。スポーツ施設の基本はそのスポーツ実施者の、安全で、安定的な利用を促進するための管理と整備が必要です。

一方、今後の利用状況によっては、日田市の将来的な財政負担も踏まえ、施設ごとに「継続・改修」、「民間または地域への移管」、「廃止」などの方向性について、検討を進めることも必要です。

基本目標と施策の方針④ 「施設利用状況の向上」

基本施策④ (1) 安全で安定的なスポーツ施設の管理と整備

施策の主体は市民・利用者・地域・競技団体等・日田市などです。

「スポーツを支える」

課題のまとめ⑤

◆アンケートによるとスポーツ関連のボランティア経験者は7.7%であり、この率の多寡には論拠がありませんが、一番多いのは自ら関係するスポーツ団体の活動の手伝い、次いで大会やイベントなどでの一般的な支援となっています。

◆また、今後のボランティアに対する意向については「行ってみたい」または「機会があれば行ってみたい」と回答した人41.9%を、「行いたくない（関心がない）」と回答した人51.6%が上回っています。

◆これをもって日田市民がボランティア意識が低いということは言えずむしろ、潜在的に41.9%もの人が何らかの形でボランティアとしてスポーツと関わりを持ちたいという意思のあらわれであると言えます。

◆機会があればボランティアに参加するということは、ボランティアに関する啓発や普及が必要です。

視点⑤

スポーツコンベンション等は、競技に参加する人、それを観戦する人や競技参加のサポートをする人のほか、競技の実施に関わる人、大会の運営に関わる人、大会を盛り上げる人など多様かつ数多くの団体・個人が関わることによって成立するものですが、「第32回オリンピック競技大会（2020/東京）」、「東京2020パラリンピック競技大会」により、スポーツボランティアブームが起こることは必至です。

日田市においても市主催イベント等の支援体制の充実を図る中で啓発や普及を図り、ボランティアの手によるイベントなどによってスポーツボランティアの振興を目指していきます。

基本目標と施策の方針⑤ 「スポーツボランティアの振興」

基本施策⑤ （1）スポーツ活動支援ボランティア体制の充実

施策の主体は市民・日田市などです。

2. 後期計画の基本理念

基本理念

市民の誰もがスポーツを自分の体力や能力、目的や目標、そのレベルに合わせて取り組むことは、からだを動かすという人間の根源的な欲求を満たすとともに、体力の向上と爽快感、達成感を与え、青少年のみならず私たちの心身を健全に育て、健康寿命を延伸するものです。スポーツに打ち込む人々の姿は、観る人を元気にし、感動を与えます。

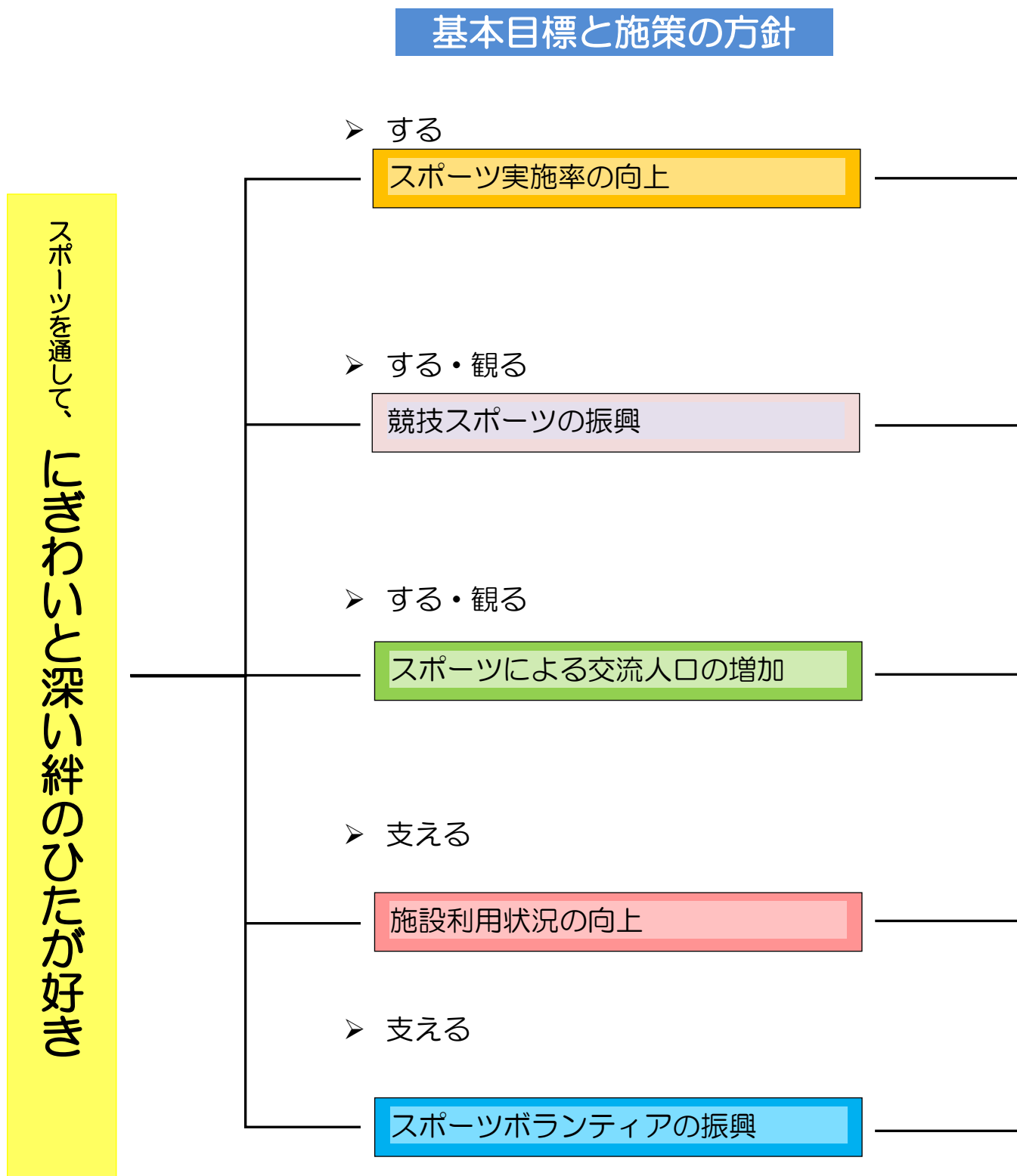
また、それを支え、応援する人々との感動や喜びの分かち合いにつなげていくには、スポーツ振興においては「支える」という視点が必要であり、スポーツを取り巻く様々な環境整備のために行政はもとより、市民や団体による絆づくりも欠かせません。

このように、スポーツを通じて人々の深い絆をつむぎ、にぎわいのある元気な笑顔あふれるひたを創造、郷土を愛するところを醸成していくことを目標としまして、本計画後期計画の基本理念を次のとおりとします。

スポーツを通して、

にぎわいと深い絆のひたが好き

3. 施策の体系図



第3章 これからのスポーツ施策

基本施策

具体的施策

(1) 手軽な運動内容などの普及、機会の創出

- 学校における地域指導者の活用の円滑化
- 市民スポーツの設定と定着
- 高齢者や障がい者の生涯スポーツの普及
- スポーツ推進委員協議会活動の充実

(1) トップアスリートへの励まし

- トップアスリートの活動助成
- トップアスリートの情報発信と顕彰

(2) スポーツ関係団体支援と連携・協働

- 日田市体育協会の競技力向上への支援
- 各種競技団体の連携・協働

(1) スポーツツーリズムの振興

- スポーツコンベンションの振興
- スポーツイベントの充実

(2) スポーツによるシティセールスの強化

- 国際スポーツ大会事前キャンプ地誘致
- 大規模スポーツイベント等の開催

(1) 安全で安定的なスポーツ施設の管理と整備

- 計画的なスポーツ施設の整備
- スポーツ施設のあり方の検討
- スポーツ施設利用料金の見直し

(1) スポーツ活動支援ボランティア体制の充実

- スポーツイベントボランティアの普及
- スポーツイベントボランティアの組織化

第3章 これからのスポーツ施策

4. これからのスポーツ振興のための具体的施策

基本目標と施策の方針① 「スポーツ実施率の向上」

基本施策①—（1）手軽な運動内容などの普及、機会の創出

具体的施策<1> 学校における地域指導者の活用の円滑化

日田市の小中学校では体力向上アクションプランによって、児童・生徒の低体力層の割合を減らすことや、運動の習慣化を目指しており、一校一実践によって取り組みを深めています。しかしながら専門種目を指導できる教員が不足していることから、学校体育や運動部活動の充実のため、地域スポーツ指導者の積極的かつ円滑な活用を図ります。

具体的施策<2> 市民スポーツの設定と定着

子どもたちや成人期以降の市民においても、競技スポーツであれ生涯スポーツであれ、スポーツの実施率の向上のためには、ブームとしていく運動・スポーツ、言わば「市民スポーツ」を特定する必要があります。

日田市では平成26年度から、椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会が開催されていますが、自転車は生涯各世代にわたって通勤や通学に利用している市民も多く、また各地で行われているロードレースなどの大会もブームとなっており、愛好者も増えています。競技大会の振興とともに、手軽にできる運動・スポーツとして定着を図ります。

一方、「川」は日田市の顔であり、子どもたちの遊びにしてもスポーツにしても「川」がもっとも日田らしい場所であると言えます。社会体育において望まれる取り組みの舞台を「川」とし、「川」で行うスポーツの振興を目指します。

平成31年に日田市で開催される全国市町村交流レガッタ大会を契機として、大会に向けた取り組みとして、単なる競技ではなく、市民スポーツとしてのレガッタ、誰もが楽しく川に親しむことのできる取り組みを実施します。

具体的施策<3> 高齢者や障がい者の生涯スポーツの普及

市民のすべてが運動やスポーツを通じて気軽に楽しみ、健康や生きがいづくりにつながる取り組みを、関係団体・機関と協働して実施します。

第3章 これからのスポーツ施策

具体的には、ミニスポーツやニュースポーツ、レクリエーションスポーツ、軽スポーツと呼ばれる種目の普及のほか、スポーツデイ、県民すこやかスポーツ祭などの行事の振興、市の主催する各種大会に参加しやすい環境の醸成などに努めます。

具体的施策<4> スポーツ推進委員協議会活動の充実

生涯スポーツの振興には、地域におけるスポーツ推進委員の活動が不可欠です。

推進委員が組織する協議会は、これまでも、ひた 42195 チャレンジウォーク大会などの企画・運営に携わるなど、日田市のスポーツ振興の要として活躍してきましたが、一層、活動の充実を図るため、手軽な運動内容などの普及、機会の創出に関する研究協議や活動の深化に努めます。

基本目標と施策の方針② 「競技スポーツの振興」

基本施策②ー（1）トップアスリートへの励まし

具体的施策<1> トップアスリートの活動助成

競技スポーツにおいて、各種の大会で個人や団体が活躍することは、市民に夢と希望を与えるとともに、スポーツ活動への動機付けに大きな影響を与えます。

トップアスリート活動支援事業によって競技力の強化に努める市を代表するトップアスリートに対し、助成を継続して行います。

具体的施策<2> トップアスリートの情報発信と顕彰

各種大会に市・県の代表として参加する個人や団体に対して激励金を交付するとともに、全国大会以上の大会で上位の成績を納めた場合には、賞賜金を交付していますが、今後も継続して実施します。

また、トップアスリートに対しては、市民の応援がその活力の源となると考えられることから、その活躍について市民に情報発信し、顕彰を行います。また、そのような暖かい声援により、将来的に後進のための指導者としても活躍する機運を醸成していくことで指導者の確保にも努めます。

基本施策②ー（2）スポーツ関係団体支援と連携・協働

第3章 これからのスポーツ施策

具体的施策<1> 日田市体育協会の競技力向上への支援

競技力向上のため、体育協会種目部や競技選手を対象に、全国的に活躍している選手などを招へいして実技指導や指導技術の講習、指導者向けにスポーツ医科学の研修などを行う体育協会に対し、助成を継続して行い、競技力向上と指導者確保に努めます。

具体的施策<2> 各種競技団体の連携・協働

日田市体育協会傘下の競技団体及び日田市スポーツ少年団の多くは競技人口や団員の減少・低迷といった課題を抱えています。

プロ化されていない、メディアへの露出や知名度が少ない競技においては、子どもでも簡単に経験できる環境がない、高い競技力のプレーが見られない、ルールがわかりにくいなど、原因はたくさんあります。しかしながら、平成32年にはオリンピック・パラリンピックが国内で開催されることを契機に、各団体が協働して競技を盛り上げていくことは可能です。

日田市と各団体と協働して、同じ課題を持つ団体同士の連携と協働ができるよう、意見交換や情報共有等によって機運の醸成を図ります。

基本目標と施策の方針③ 「スポーツによる交流人口の増加」

基本施策③ー(1) スポーツツーリズムの振興

具体的施策<1> スポーツコンベンションの振興

市内で開催されるスポーツコンベンションのほか様々な地域資源の魅力と交通アクセスの利点を生かし、交流振興と地域経済へ高い波及効果をもたらす市外からの訪問客の増大を目指して、スポーツツーリズムの振興を図ります。

具体的施策<2> スポーツイベントの充実

特に「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」、「ひた 42195 チャレンジウォーク」、「椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会」については日田市を代表する3大スポーツイベントとして定着を図り、一層の交流人口の増大を図ります。

第3章 これからのスポーツ施策

基本施策③ー（2）スポーツによるシティセールスの強化

具体的施策<1>国際スポーツ大会事前キャンプ地誘致

「第32回オリンピック競技大会（2020／東京）」、「東京2020パラリンピック競技大会」においては、日田市にとってシティセールスの絶好のチャンスととらえ、事前キャンプの誘致を積極的に推進します。

具体的施策<2> 大規模スポーツイベント等の開催

市民が一流のスポーツに触れる機会を創出するため、国際スポーツ大会、全国レベルの大会やプロスポーツの試合等の誘致に努めます。

基本目標と施策の方針④ 「施設利用状況の向上」

基本施策④ （1）安全で安定的なスポーツ施設の管理と整備

具体的施策<1> 計画的なスポーツ施設の整備

誰もが気軽にスポーツに親しむため、身近なところで安心して利用が図られるよう、計画的にスポーツ施設の整備を進めます。整備を行うに当たっては、施設の将来的な利用状況や、償却の状況、費用などの条件を勘案して整備計画を立案し、大規模改修等、計画的に整備を進めていきます。

具体的施策<2> スポーツ施設のあり方の検討

今後の利用状況によっては、日田市がこのまま管理を続けるべきかなど、将来的な財政負担も踏まえて、施設ごとに「継続」、「民間または地域への移管」、「廃止」などの方向性について、検討を進めます。

具体的施策<3> スポーツ施設利用料金の見直し

基本的に今のスポーツ施設の利用料金は安価に設定されており、さらにスポーツ振興の観点により団体助成の一環として、施設利用料金について減免などの制度を設けています。受益者負担の原則もあり、日田市全体の施設における利用料金体系の検討の中で日田市にふさわしいスポーツ施設の料金体系についても見直しを進めます。

第3章 これからのスポーツ施策

基本目標と施策の方針⑤ 「スポーツボランティアの振興」

基本施策⑤ー（1）スポーツ活動支援ボランティア体制の充実

具体的施策<1> スポーツイベントボランティアの普及

スポーツコンベンション等は、多様かつ数多くの団体・個人・企業が関わることによって成立するものです。市主催イベント等のスポーツイベントボランティア支援体制の充実を図るため、広報等による情報発信を行うとともに、普及・啓発を図ります。

具体的施策<2> スポーツイベントボランティアの組織化

スポーツコンベンション等は、競技に参加する人、それを観戦する人や競技参加のサポートをする人のほか、競技の実施に関わる人、大会の運営に関わる人、大会を盛り上げる人などにより成り立ちます。イベントごとに性質は違うものの、たくさんのボランティア参加者を確保するため、登録制度を設け、研修会を開催するなど組織化を図り、スポーツボランティアの振興を目指します。

5. 具体的重点戦略

これまでの掲げた施策のうち、今後5年間において最重要な取り組みとなるものを設定し、次に掲げます。

i スポーツツーリズムの振興

「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」、「ひた 42195 チャレンジウォーク」、「椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会」は、日田市におけるスポーツのビッグイベントとして定着しているものですが、スポーツツーリズムの中核と位置づけ、県内外からの一層の誘客に努めます。

また、スポーツイベントはボランティアの活躍する最大の機会であり、スポーツボランティア振興のための基礎を固めてまいります。

ii スポーツによるシティセールスの強化

第3章 これからのスポーツ施策

「第32回オリンピック競技大会（2020/東京）」、「東京2020パラリンピック競技大会」の開催において各国が事前キャンプを実施することは、日田市にとってシティセールスの絶好のチャンスととらえ、事前キャンプの誘致を積極的に推進します。

カメルーン共和国は2002FIFAワールドカップ以来、日田市にとってゆかりの深い国です。オリンピックをチャンスに一層の交流を図るため、これまで培ってきた友好国としての人脈をもとに、トップセールスを含めた様々な手段を用い、キャンプ地誘致に努め、国際的な絆を深めてまいります。

また、平成28年度に大韓民国・カザフスタン共和国・香港・日本のフェンシング競技の合同合宿が日田市で開催されたことから、フェンシング競技についての実績をもとに事前キャンプの誘致を推進します。

iii 各種関係団体の組織強化と連携

スポーツ関係団体としての、競技団体・体協・スポーツ少年団・スポーツ推進委員協議会の持つ課題解決のため、ともに解決に向けて意見交換などを進めます。

また、スポーツ振興はスポーツ関係団体だけで達成するものではなく、スポーツ以外の関係機関・団体等とのつながりも必要であり、連携の強化に取り組みます。

iv 安全で安定的なスポーツ施設の管理と整備

老朽化した各スポーツ施設を安全性、利便性、快適性を目指し延命化等の措置により整備を行います。

同時に平成28年度に策定した日田市公共施設総合管理計画に基づき、施設のあり方について検討を進めます。

6. 計画指標の設定と進行管理

前期計画計画指標の達成状況と指標設定の方向性について

平成24年にスポーツ振興計画を具現化するにあたって、ベンチマークとして6つの指標を設定していました。その達成状況と今後の目標設定は以下のとおりです。

第3章 これからのスポーツ施策

図 33 前期計画計画指標の達成状況と指標設定の方向性

項目	平成 23 年度 現状	平成 28 年度 計画目標	平成 27 年度 実績とアン ケート結果	平成 33 年度 計画目標 (旧)	平成 33 年度 計画目標 (新)
①成人の週 1 回以上のスポーツ 実施率	38.4%	44%	41.1%	50%	65%
②成人の週 3 回以上のスポーツ 実施率	16.4%	20%	18.9%	25%	30%
③全国大会に出場する市民の 人数	306 人	325 人	241 人	350 人	350 人
④県民体育大会の成績	3 位	2 位以内	5 位	2 位以内	3 位以内
⑤スポーツ施設(市営施設の み)の利用者	505,934 人	525,000 人	456,784 人	550,000 人	550,000 人
⑥総合体育館や陸上競技場等 を無料開放するスポーツデー	0 回/年	3 回/年	1 回/年	6 回/年	-
⑥スポーツイベント参加者数			H27 年度 現状 4,657 人	-	5,000 人

①と②については、目標値に近い数字が出ていることがわかります。スポーツの実施率はこの計画の基礎となるため、後期でも指標として掲げます。

ただし、国が定めるスポーツ基本計画では、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率が 3 人に 2 人（65%程度）、週 3 回以上のスポーツ実施率が 3 人に 1 人（30%程度）となることを目標とするとされていることから、本市においても計画の最終年度である 33 年度の目標は同等の各々 65%、30%を目指すこととします。

③についてはトップアスリートの輩出を期待する数値ですが、27 年度実績において目標はもとより 23 年度現状値を下回っていることがわかります。しかしながら、この指標は、スポーツ振興の期待値であることから今後も継続して使用します。

④については現実味を問われ、現状を維持することを問う指標であることから、23 年度現状値（3 位）以内を目標とすることが妥当です。

⑤については 23 年度の現状値から低下しています。今後施設のあり方の見直しを行っていく中で、スポーツ以外の有効利用も考慮する必要があることから、当初の目標水準を維持します。

第3章 これからのスポーツ施策

⑥については、事業実施状況等の活動指標であり、成果指標ではないため、今回の後期の計画指標からは除き、新たにスポーツイベント参加者数を加えます。この数字は、各団体が主催するスポーツコンベンション事業の参加者と、日田市が主催する「天領日田ひなまつり健康マラソン大会」、「ひた 42195 チャレンジウォーク」、「椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会」の参加者の合計です。スポーツが生み出す交流人口としての指標とします。

また、計画期間の毎年度終了後、本計画策定委員会に、設定された計画指標の結果や事業等進捗状況の報告を行い、必要な見直しを行います。

7. 計画実施の主体

本計画の施策の実施主体は、「自助」「共助」「公助」の考えを踏まえ、次のとおりとします。

図 34 計画実施の主体

基本施策	市民	関係団体	その他	日田市
手軽な運動内容などの普及、機会の創出	◎	スポーツ推進委員協議会	福祉関係機関(団体)・学校	◎
トップアスリートへの励まし	◎	競技団体	—	◎
スポーツ関係団体支援と連携・協働	○	体協・スポーツ少年団等	—	◎
スポーツツーリズムの振興	○	競技団体	観光関係機関(団体)	◎
スポーツによるシティセールスの強化	○	競技団体	観光・政治・経済機関(団体)	◎
安全で安定的なスポーツ施設の管理と整備	◎	競技団体	—	◎
スポーツ活動支援ボランティア体制の充実	◎	—	福祉関係機関(団体)企業等	◎